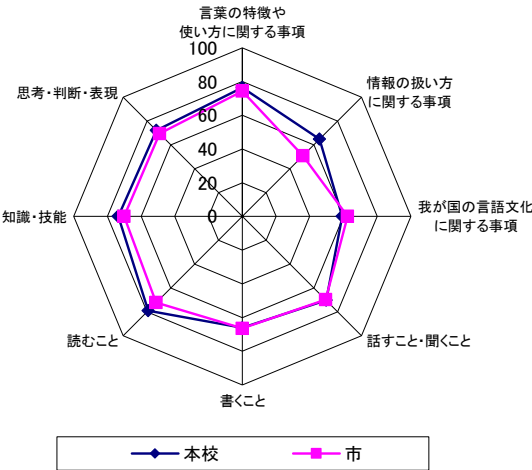


宇都宮市立平石北小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.4	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	64.8	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	59.3	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	70.4	69.9	69.7
	書くこと	66.0	66.4	64.6
	読むこと	79.0	72.3	71.0
観点別	知識・技能	73.5	70.1	70.0
	思考・判断・表現	72.1	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

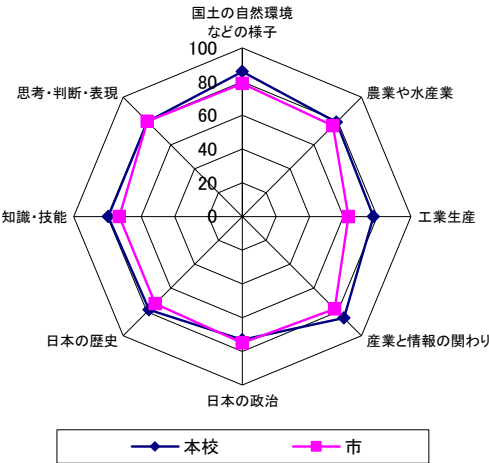
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	・正答率は、市平均よりも2.1ポイント上回っている。 ○文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使っている問題では市平均より11.4ポイント上回っている。 ●尊敬語について理解し、正しく使っているかの問題では、市平均より5.5ポイント下回っている。また謙譲語について理解し正しく使っているかの問題も市平均より1.0ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・相手に応じた敬語の使い方や、配慮ある話し方について今後も指導していく。
情報の扱い方に関する事項	・正答率は、市平均よりも13.9ポイント上回っている。 ○情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する問題では、市平均より6.3ポイント上回っている。 ○情報と情報の関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いている問題では、市平均より21.6ポイント上回っている。	・今後も文章に書いてある情報を整理するような課題の取り組み方についての指導を充実させていく。 ・引き続きポイントを確認しながら、文を書くことや、お互い読み合うことの指導を行っていく。
我が国の言語文化に関する事項	・正答率は、市平均よりも3.1ポイント下回っている。 ●漢字の由来について理解するかを確かめる問題では、市平均より3.1ポイント下回っている。	・漢字の成り立ちについて部首や作りのはたらきを正しく理解できるように、例などを提示して、授業の中で随時取り入れ、学習できるようにする。
話すこと・聞くこと	・正答率は、市平均よりも0.5ポイント上回っている。 ○互いの立場や意図を明確にしなが、計画的に話し合うことを理解する問題では、市平均より4.2ポイント上回っている。 ●計画的に話し合い、考えを広げるための工夫を捉えているかを確かめる問題では、市平均より4.6ポイント下回っている。	・学校生活の中で、一つの議題をテーマにして話し合うような機会を設けることで、話の重要なポイントを聞き取れるように指導していく。
書くこと	・正答率は、市平均よりも0.4ポイント下回っている。 ○グラフから読み取った事実を書く問題では、市平均より3.1ポイント上回っている。 ●事実を基に自分の意見を明確に書く問題では、市平均より9.6ポイント下回っている。	・グラフから回答を導き出す課題が市平均を下回っているものが多かったので、文章だけでなく、棒グラフや円グラフなどから読み取ったものをどのように文章にまとめていくのかということを重点的に指導していく。
読むこと	・正答率は、市平均よりも6.7ポイント上回っている。 ○文章全体の構成を捉え回答する問題では、市平均より17.2ポイント上回っている。 ○文章の論の進め方を捉え回答する問題では、市平均より10.2ポイント上回っている。	・今後も物語や説明文の内容をどのように読み取るのか、文章から重要な言葉をどのように見つけたらいいのかということを指導していく。

宇都宮市立平石北小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	85.9	78.9	75.4
	農業や水産業	79.0	76.1	71.2
	工業生産	77.8	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	85.2	77.6	59.7
	日本の政治	73.1	75.0	79.3
	日本の歴史	78.2	73.1	72.8
観点別	知識・技能	79.5	73.0	71.4
	思考・判断・表現	79.6	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

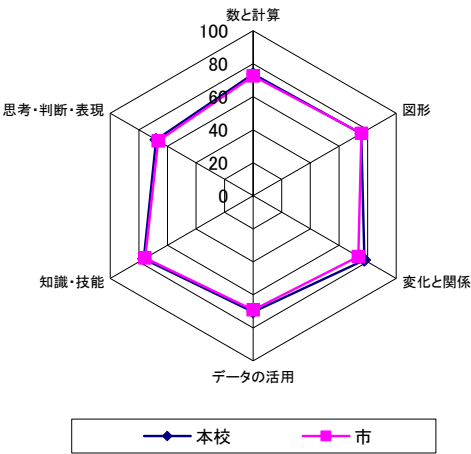
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境 などの様子	・正答率は、宇都宮市の平均を7ポイント上回っている。 ○日本の主な地形と名称と位置の理解をもとに、地図を読み取る力が市の平均正答率に比べ、24.4%ポイント上回っている。 ○日本の周辺の海洋や津波から生活を守る取組についてもよく理解している。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地球儀や地図の読み方や地名の理解や知識の定着を深める時間を今後も継続して設けていく。 ・国土や自然環境について資料集等の読み取りを大切にした指導を今後も継続していく。
農業や水産業	・正答率は、宇都宮市の平均を2.9ポイント上回っている。 ○日本の農業人口をめぐる課題について、資料の読み取りは市の平均を13.0ポイント上回っている。 ○都道府県の位置の理解をもとに、米の生産量について表を読み取り、白地図にまとめることができています。	・日本の農業の抱える課題について、資料から何が読み取れるかをじっくり考える場面を設ける。現状と解決策について話し合うとともに、自分なりの考えが持てるようにする。 ・資料から読み取ったことを白地図にまとめていく活動を今後も継続していく。
工業生産	・正答率は、宇都宮市の平均を14.9ポイント上回っている。 ○どの問題も高い理解力を示している。特に大工場と中小工場の理解をもとに、資料を読み取りが、市の平均正答率より21.3ポイント高く、よく理解している。	・自動車工場の見学やオンライン見学などを活用し、実際の物を見て気付いたことや、資料から読み取って考えたことを話し合う場面を設け、考える力・表現する力が向上するようにする。 ・今後も工業生産に関わる基礎用語を丁寧に扱い、基礎知識の習得に努める。
産業と情報の関わり	・正答率は、宇都宮市の平均を7.6ポイント上回っている。 ○資料に着目して、コンビニエンスストアのポイントカードの利点を考え、表現する問題では、市の平均を11.6ポイント上回っている。 ○インターネット利用時の注意点をよく理解している。	・今後も情報モラル教育の充実を図る。 ・情報を正しく選択・活用できる力が身に付くようにするために、自分の身のまわりのメディアやインターネットに注意深く目を向けさせる。
日本の政治	・正答率は、宇都宮市の平均を1.9ポイント下回っている。 ○日本国憲法の三原則についてよく理解できている。 ●国会の仕組みについては市の平均より11.9ポイント下回っていて、あまり理解できていない。	・政治がより身近なものとして感じられるように資料集やデジタル教材を有効活用し、学習内容の理解に役立てる。 ・資料の読み取り等を通して、基礎的事項を習得させ、現状と解決策について話し合うとともに、自分なりの考えがもてるようにする。
日本の歴史	・正答率は、宇都宮市の平均を5.1ポイント上回っている。 ○元寇についての理解をもとに資料を読み取る問題では市の平均を13.7ポイント上回っている。 ●織田信長の勢力拡大や江戸時代の大名配置についての資料の読み取りは市の平均より12.8ポイント下回っている。	・歴史への興味・関心を高めるために、資料集やデジタル教材等を効果的に活用し、学習内容を理解しやすいようにしていく。 ・歴史上の人物に焦点を当てた図書を紹介したり、新聞づくりを行ったりする学習活動を取り入れ、学習内容の定着を図る。

宇都宮市立平石北小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	73.8	72.6	73.1
	図形	75.5	75.7	74.7
	変化と関係	77.8	73.6	66.1
	データの活用	70.4	69.2	70.7
観点別	知識・技能	76.5	75.5	74.4
	思考・判断・表現	67.9	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

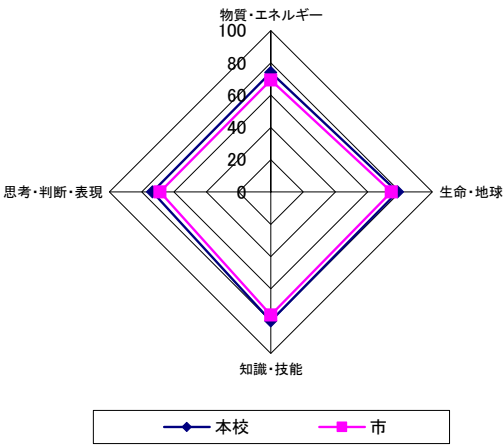
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・平均正答率は、市の平均よりも1.2ポイント上回っている。 ○「1より小さい分数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表す」問題において、市の平均を13.3ポイント上回っている。 ●「文字式の表す具体場面を選ぶ」問題において、市の平均を13.7ポイントを下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・文章から、問題の場面を考えたり、式を導き出したりする学習では、線分図や、数直線などを書きながら取り組むことを徹底し、図と式を関連付けた思考ができるようにする。 ・未知の数量が四角から文字になるだけで苦手意識を持つ児童が多いので、朝の学習の時間を活用したり、少人数学習や習熟度別学習の時間を利用したりして、今後も個に寄り添った指導を進めていく。
図形	・平均正答率は、市の平均よりも0.2ポイント下回っている。 ○「高さが図形の外にある平行四辺形の面積を求める」問題において、市の平均を5.5ポイント上回っている。 ●「直方体を組み合わせた図形の体積を求める」問題では、市の平均を7.3ポイント下回っている。	・図形の構成要素や計算の仕方について、既習内容を確認し、実際に作図をするなどして、図形の合成・分解を行い視覚的にも計算の方法を理解できるようにする。 ・様々な問題にふれるよう練習問題に取り組ませる。
変化と関係	・平均正答率は、市の平均よりも4.2ポイント上回っている。 ○「速さの単位の関係を理解し分速を秒速や時速に直す」問題において、市の平均を13.5ポイント上回っている。 ●「表から面積と人数の割合を求め、最も混んでいる公園を選ぶ」問題では、市の平均を2.9ポイント下回っている。	・単位量あたりの大きさについての考え方は概ね理解できているので、問題を解く際には、文章をよく読み、題意を十分理解した上で図や式に表す習慣が身に付くよう、繰り返し指導する。 ・割合や、速度が生活の中で用いられている場面を随時提示し、自分たちの身近にあることを認識できるようにする。
データの活用	・平均正答率は、市の平均よりも1.2ポイント上回っている。 ○「値に0がある場合の平均を求める」問題において、市の平均を12.2ポイント上回っている。 ●「度数分布表を完成させる」問題では、市の平均を10ポイント近く下回っている。	・場面や用途にあった様々なグラフに慣れ、情報を正しく読み取ることができるよう、多様な問題演習を繰り返す行うことで定着を図っていく。 ・平均を求めたり、多面的にデータをみたりできるように、他教科の教材や、実際の資料等も活用し、児童が興味関心をもって問題に取り組めるよう、教材の提示や指導の方法を工夫する。

宇都宮市立平石北小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	74.1	69.3	65.7
	生命・地球	78.5	74.7	77.8
観点別	知識・技能	79.9	76.2	76.4
	思考・判断・表現	73.3	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・平均正答率は、市の平均よりも4.8ポイント上回っている。 ○「ろ過のしかたで正しくないところを指摘する」問題では、市の平均を17.3ポイント上回っている。 ○「電流のはたらき」の磁石の極と方位磁針の指す方向との関係に於いて、市の平均を10.9ポイント上回っている。 ●「ふりこの1往復する時間がいちばん短いふりこを指摘する」問題では、市の平均を8.0ポイント下回った。	・「物のとけ方」など実験を通して学んだことが高正答率に結び付いているように、各単元児童が興味・関心をもって実験や考察の活動が行えるように、授業内容の工夫に取り組んでいく。 ・実験結果や考察などを正しく理解できるように、実験や考察の後のまとめの時間をより丁寧に行い、理科学的な知識と思考の定着を図れるようにする。
生命・地球	・平均正答率は、市の平均よりも3.8ポイント上回っている。 ○「呼吸のはたらきにより空気と呼気とで成分がどのように変わるか」の問題では、市の平均を24.6ポイント上回っている。 ○「植物のはたらき」の葉の養分をつくるはたらきに於いて、市の平均を13.8ポイント上回っている。 ●「食べ物を通して動物と植物の関係を指摘する」の問題では、市の平均を6.3ポイント下回った。	・観察や実験を通して学んだことの知識がよく定着している。「生物とかんきょう」など他の単元に於いても観察や実験を通して得られた知識を十分に活用できるように、身の回りのことや自分たちの生活と結び付けて考えられるように、発問の工夫等を行うようにする。

宇都宮市立平石北小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
安心して考えを伝え合い、互いに高め合える学級集団の育成～I want to ～のある授業を目指して～	話し合いなどの言語活動の充実を図り、学習形態を工夫し、自分の考えを深め、授業の中で話し合う、発表し合うなどの伝え合う場面を意図的に設定する。	アンケートの調査結果から、「先生や友達の話最後まで聞いている」の質問に対しての肯定的回答がほとんどの学年で80～90%だった。先生や友達の話聞くことで自分の知識が深まり、学びにつながった。今後も、学年に応じて聞き方の方法(比較しながら聞く・考えを友達と共有する)を意識的に指導し、自分の考えとつなげて考える機会を設ける。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

6年生の学力調査の結果では4教科とも市の平均を上回っているが、以下のような課題も見られた。国語では、事実を基に自分の意見を明確に書く問題を苦手としている児童が多い。自分なりの考えをもち、根拠を示しながら書くことができるよう、毎時間ノートに自分の考えを書くなど、日常的な指導を積み重ねていく。算数では、図形の領域において面積を求める問題を苦手としている児童がいる。図形の構成要素や計算の仕方について、既習内容を確認したり、様々な問題にふれるよう練習問題に取り組ませたりして、指導の充実を図る。

今回のアンケート調査の結果を参考にしながら、「授業のねらいが分かるか」「進んで発表しているか」「勉強は楽しいか」児童の気持ちを受け止めながら、教材研究や発問の仕方、日常的な関わりを工夫するよう心がけていく。また、読み書き計算、話す・聞く、文章を書くなどの基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、習得した知識・技能を活用しながら課題を追究する力を育成していきたい。